



# 永遠なる会

## 一桃山高校定期制



### MEDITATION OF THE MONTH

#### COME HOLY GHOST

"And when the days of Pentecost were drawing to a close, they were all together in one place. And suddenly there came a sound from heaven, as of a violent wind coming, and it filled the whole house where they were sitting."

O Divine Spirit of Truth, come once again to our world of unbelief and infidelity and with the force of a violent wind stir up, we beseech Thee, the unbeliever to firm belief and the infidel to strong fidelity.

### 月の黙想

#### 「聖靈來り給え」

「ペンテコステの日至りしかば、皆一所に集り居けるに、忽ちにして天より烈しき風来るが如き響ありて、彼等が坐せる家に充ち渡れり。」

おお真理の聖靈よ

この不信と不頼の世に再び來り給え、且つ烈しき風の力を以て不信者を強き信仰へ、不頼者を強き信頼者とならせ給わんことを願い奉る。

### カトリックについての講演

四月十三日(月)午後一時から四時頃まで、東本願寺において、カトリック教会の機構(ローマ聖堂、聖母マリア像、各教区との関係、公会議、教区會議、財政等)について萬木師(伏見教会主任)による話がなされた。それは、「宗憲」の研究会において、「カトリック教会法典」を研究するに必要な機関の問題を説明するため、研究会の委員の方に喜ばれた。

クラブル活動と同様、楽しく種々の活動をして参りました。今までにして参りました活動として、次の様なものがございます。学生の皆さんに少しでもカトリックというものに興味が湧いて頂いております。

発会以来、丁度四年経過致しましたが、この間には、いろいろのことがありました。先ず発起人の一人は、現在東京のカルメル会の神学校に在学中であり、他の一人は、伏見教会において、皆に祝福されながら結婚にゴールイン、そして一人の女性は舞鶴のナザレ修道院に一年前から入っております。

会の行事としては、昨年の初めから半年に一度慰問に行くことになり、深草大龜谷の老人ホームへ二回、そして今年に入って衣笠の整蔵園へ行き、コーラス、紙芝居や皆で色紙を折つたりして、一緒に半日または一日を過ごしました。また去年の夏にはびわ湖へ泳ぎに行ったり、青谷教会で行なわれたJ.O.C.の年次集会にも参加させて頂いたり、皆張り切つたりして、一緒に半日または一日を過ごしました。また去年の夏に受洗し、また在校生十五名中信者は三名ですが、全員現在求道中で、受洗は

洗の間近かな人が二、三名あります。これといって何もPRはしていませんが、会員も次第に増えております。会員は伝統的にコーラス部員が多く、皆歌の好きな人達ばかりです。三月十五日に行なわれた青谷教会での慈善パーティには、全員がお手伝いをして大活躍致しました。

ノートルダム女子大学マリア会 コングレガチオ・マリアナ(聖母会)

今度、ノートルダム女子大学のマリア会について寄稿させていただきます。ノートルダム女子大学のマリア会は、発足して今年で四年目を迎えることになりました。大学の浅い歴史の中、マリア会は小さな存在を占めながらも、色々な仕事をして参りました。また、今も少しづつ発展していくております。

私達マリア会は、コングレガチオ・マリアナの会則に従つておりまます。即ち、自己の靈的生活を向上させると共に、お互に聖母マリアの御助けを願いつつ、他人の救靈のために働くという目的を持つております。活動としては、大学における宗教的行事のお手伝がもっぱらですが、また、ノートルダム女子大学、学生活動の組織の一つとして、他の

最後に、この会は、神様を知り、神様に仕えてついに天国の幸福を得ることを目標としておりまます。今年一月から結成された「永遠なるO.B.会」と共に、この目的達成のために皆一生懸命に協力し合って頑張ります。教区の皆様のお祈りをお願い申し上げます。

## 主の晩餐の

莊嚴ミサとアガペ

祭壇の勝利のキリストを描く壁画——をおおつたヴェールの紫が、聖体制



聖週間と御復活

伏見教會

聖週間の火蓋をきったのは、何年か振りに行なわれた枝の主日の行列でした。最初の試みというので、教会の庭だけをまわりましたが、全員が手に「棕櫚の葉をもつて「ラダ・イエルザレム」（イエルザレムよ、主を称えよ）を歌いながら進んで行く光景は、主のイエルザレム城の光景もかくやとばかりしのばせますのに充分なものがありました。然しこの行列のためか、例年通りに準備した棕櫚の葉はたちまちなくなり、夜の御ミサにこられた多くの人々に与えることができなかつたのです。は嬉しいやら、悲しいやらでした。

折柄合宿中の学連員、年々ますます達も加えて、聖堂は立錐の余地もななく、聖木曜日に準備した新しいホステアが、聖金曜日の式のあとには殆ど残っていないというようなきわどい状態でした。

聖土曜日には、古屋司教様が司式して下さり、司教様御自身の歌われる「ブレコニウム・パスカーレ」によつて、主の光栄の御復活が高らかに宣言されたことは、当教会にとって大いなる喜びでした。一方、殆ど二十年振りにこの日の美しい典礼を歌われた司教様御自身も大変御満足のようでした。

尤も、洗礼の方は、去年のクリスマスに十五名、そのあと二名の受洗のあと、丁度中休みの時にあたり残念でしたが、それでも男子大学生、女子高校生各一名が受洗の喜びを得られました。



エッグ・パーテイ

—西院教会青年会—

## エ・グ・ハ・リ・テ

この聖体の記念式典に参加した人は約百名で、神の偉大な愛を眞髓に受け、その感激と余韻にふるえる瞳の焦点を家路へと合わせたのは九時であった。

を必ず一日程に組んでおられる。そればかりでなく、宿舎でも毎朝随行して來た司祭のミサ聖祭に欠かさず与かつておられたのである。国王御夫妻は眞に信仰の深い方々である。それは私共の接した一、二の事からも察せられる。

当日、九時のミサ聖祭に一緒に与かつた方々も多い事だらうと思ふが、私はお詫びする事

定を祝う斎厳ミサのために活けられた麦の穂と対象に、参集する人々の心に浸透するに十分な情景を呈していた。

そこには、記念というより、キリストとその弟子の間ににおいて行なわれた最後の晚餐そのものであるような感激と興奮が渦となって私達を包み、しかも、それが主の偉大なる人類に対する慈愛の他、何物でもないと感知せざるにはおられなかつた。

七時三十分、「我等は、我等の主イエズス・キリストの十字架以外の何物にも誇りを置かないであろう。

彼において、我等の救い、生命、復活がある」とガラチア書を読む司祭の入祭文で、ミサ聖祭が始まられ、聖体に与かるべき心構えを説く聖パウロの書簡、私達が相互に愛と謙遜を持つようにと諭すヨハネ福音書の朗讀後、ヘーシベック神父様の「聖体の制定と司祭職」についての説教があり、統いて洗足式がなされた。

して高慢になりがちな私達が、平然として十字架を仰ぎ見ることが出来なかつたであろう。

古代教会においてなされたと伝えられる「アガペ」のためのパン、ブドウ酒等の奉獻がなされ、聖体tribulum領と共にミサ聖祭が終り、主の御聖体は、聖体遷置所へと移された。

その後、伝道館で、ヘーシベック神父様の「アガペの意義」についてのお話しが、聖書朗誦を含めて行なわれ、復活祭受洗者及び求道者の紹介の後、神父様方の給仕で「アガペ」が開かれた。

た。終りには、庭で玉子さがしが始まり、色付きの玉子を求めてうろうろしている子供達に、見ている人もいらいらしていた。

(写真説明) エッゲ・パーティ

小さな印象

河原町教会 小野神父

た。終りには、庭で玉子さがしが始まり、色付きの玉子を求めてうろうろしている子供達に、見ている人もいらいらしていた。

(写真説明) エッゲ・パーティー

